携帯ブログ 薬物の連鎖

親は知らない

女子中生 大麻 キメポーズ

読売 2010.8.23

昨年11月、関西地方の閑静な住宅街。その晩、中学2年生のマミ(14)は午後9時を過ぎても帰ってこなかった。不安になった母親(51)は、車で深夜の街を走り回った。ほどなく目に飛び込んできたのは、男女3人に両脇を抱えられながらフラフラになって歩く娘の姿だった。

「何してるの！」。声をかけると、4人は一斉に逃げ出した。近くを通りかかった警察官に一緒に捕まえてもらい、ようやく駅前のコンビニエンスストアのトイレで追いつめてみると、娘の目は血走り、転倒したのか体はアザだらけだった。

家に連れ戻し、ぐったりと死んだように眠るマミの枕元でカバンをあさってみた。出てきたのは4枚の写真。娘と同世代の少女たちが写っている。一人として知った顔がない。パイプや、ビニール袋に入った草も写っていた。

「その時点でも、それが大麻だとは夢にも思わなかった」と母親は振り返る。

マミら女子中学生5人が逮捕されるなどした大麻取締法違反事件に発展するのは、その約2か月後だった。逮捕されたのはいずれも通う学校に通う少女たち。つなげたのは、ケータイのブログだった。

◆

「将来は保母さんになる」。そう夢を語っていたマミが変わったのは、その年の夏休みだ。黒かった髪を茶色に染め、幼い顔に似合わない化粧も始めた。ケータイに自分のブログを開設し、交友関係を学外に広げていった頃だった。

通う学区の中学に通う2年のケイコ(14)もブログで知り合った一人だ。ケイコのブログの「おともだちリスト」をクリックすると、今回逮捕された女子中学生たちのブログにつながっていく。

自己紹介欄には「ガンジャ娘」「お野菜好きなら声下さい」「プリプリ 大好物」の書き込み。「ガンジャ」や「野菜」は大麻を、「プリプリ」は大麻を吸引してもらうことなった状態を指す。実際、彼女たちはこの時期、やはりブログで知り合った別の中学の2年生、レイ(14)から「気分がハイになるよ」ともらった大麻を吸い始めている。

ブログで目立つのは、親指と小指をたてるポーズ写真。大麻をパイプで吸うイメージを表現したものだという。

このポーズの意味について、近くのアーケード街で遊ぶ中高生に聞いてみた。「クサ（大麻）でキメるってことでしょ。みんな知ってるよ」。事件も掲げに言った。

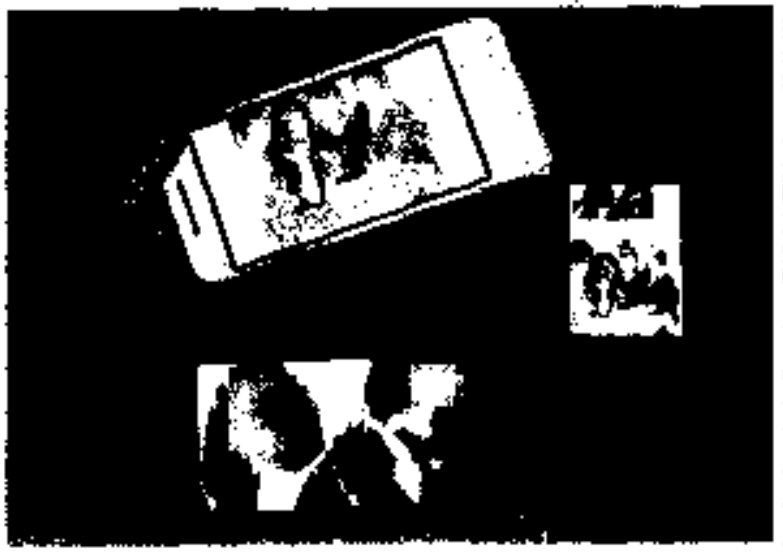
「一昔前なら繁華街や暴力団関係者などが危険な場所に出入りしがちだったが、今はケータイをいじるだけで簡単に入手できる」。薬物捜査のベテランはこう嘆く。

ネットを介し、子どもたちの間に氾濫する薬物情報。だが、親たちは知らなかった。ケイコの母親(46)は「ケータイやネットがなければ、娘はこんなことにならなかった」と話すが、娘のケータイの使い方は把握できていない。「別所から出所し、『もう反省している』と言う娘のブログには、今も『プリプリ』『毎日オール（徹夜）してます』と書き込まれている。

（登場人物はいずれも仮名、年齢は事件当時）

＊

インターネットが、未成年を取り巻く薬物問題を変容させようとしている。合法、違法を問わず、クスリとその情報はケータイで簡単に手に入り、発信と閲覧のハードルを下げている。情報に翻弄され、クスリに体をむしばまれる若者たちの姿を追う。



少女たちのケータイブログにアップされた写真。パイプをかたどった手を口に当て、大麻吸引を表している＝桜本剛撮影（画像は一部加工しています）

未成年者の摘発 10年で倍増

厚生労働省によると、2008年に大麻を所持していたなどとして摘発された未成年は、2534人と全検挙者の1割弱を占め、10年前の2・2倍に増えた。大きくかかわっているのがインターネットの存在だ。昨年、インターネット・ホットラインセンターに通報された有害情報のうち、薬物売買の書き込みなどは2560件と、07年の2・1倍に上った。一方、センターの削除要請に対し4割のサイトが応じないなど野放しになっている。